

寺報

発行 福島市田沢字寺前18
長秀院・仲興寺

TEL 024(548)1240

FAX 同上

ホームページ <http://www.choshuin.jp/>

e-mail info@choshuin.jp/

編集責任 渡辺 祥文



清風萬里秋

「せいふうばんりのあき」と読みます。茶席などにも掛けられる良く知られた禅語の一つです。

清^{きよ}しい秋風が吹くと紅葉となり、その色付いた葉も風に舞うようになると。美しい風景であるとともに無常^{むじやう}ということ^{こと}を改めて観^{かん}ずるところであるという意味です。

人生を顧^{よすが}みる縁^{ゆかり}ともなる言葉です。字面から美しい秋を感じますので、そのような人生にしなればとも考えさせてくれる禅語です。

案内板

長秀院

そばを食べる会

洗心講座法話

○十一月十日(日)

午前九時より

(別紙申込用紙)

旅行会

「さあ、二度目の東京五輪

ーオリンピック施設と

寺院巡拝の旅」

○十二月五日(木)

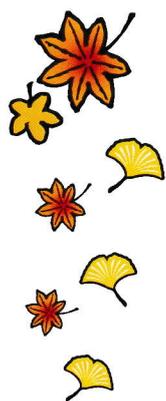
六日(金)

梅花流福島県奉詠大会

○十一月十三日(水)

福島市飯坂町

「パルセ飯坂」



令和元年 錦秋

山主拜

弟子秀憲の永平寺便り

侍真寮

先号でお知らせいたしましたですが、秀憲は「侍真寮」へ転役いたしました。三ヶ月、五ヶ月毎に配置転換され永平寺の修行運営のためにつとめるのですが、その配置転換を転役といえます。一般的な辞令という文書はありませんが、全山放送Ⅱ永平寺山内へのマイク放送で通知されます。基本的に内辞はありませんので突然の配置転換となります。但し一年目、二年目、三年目と役割の違いがありますので、限られた範囲の中で次はどこだろうかと修行僧たちは考え予想することもあります。新しい役目・役割に習熟するには時間がかかりますので転役となると緊張も大きくなります。

侍真寮とは「真骨に侍べる寮舎」という意味です。真骨とは道元禪師はじめ歴代の住持（住持職Ⅱ住職）のご霊骨をおさめている廟にお仕えする者の寮舎ということになります。その総責任者を「侍真」といいます。これは各宗共通で、天台宗比叡山も真言

宗高野山もこの役職がおられます。

廟におつかえする総責任者の「侍真」は只毎日朝から晩まで祖師が「おわすがごとく」お仕えます。三度の食事をお供えし、朝の起床から夜の就寝までお仕えするのです。侍真のお役の方は特別であり外出もありません。ひたすら道元禪師様方のお側でお仕えます。その下に雲水たちもその役割を分担しお仕えいたします。

一般的には理解し難いと思われるかもしれませんが、まさに信仰の世界です。道元禪師はじめ歴代様方はこの世界におわすのだとおつとめするのです。侍真寮に配置されるとその得難さに改めて感謝し努力精進を重ねます。道元禪師のお側で修行できる、二祖狐雲懷辨禪師はじめ歴住様のお側にいることができる、永平寺の中でも侍真寮に配置されたときだからこそその法幸であり、悦びなのです。また、常に法要三昧となりますので、厳しい法要のための訓練を重ねることになります。

秀憲は今改めて、寝る間もおしんで様々なことを覚えること、ひたすらに体をつかうこと、また祖師方へのお仕えの喜びと緊張の日々であると思えます。

御禁忌

侍真寮へ転役してからほぼ音信不通となりました。葉書・手紙を書く暇などないということがわかっていきますので音信不通は無事の知らせと思っております。

九月下旬、大法要の一週間、御禁忌の期間となります。御禁忌とは永平寺の歴代住職様方のご法事の大法要です。現在は第七十九代である福山諦法禪師様が住職（貫首）ですが、七十八代目までの禪師様方のご供養を行う一週間となります。場所を大本堂である法堂へ遷し、連日

ご法要と各種行事が厳修されます。

侍真寮の寮員の修行僧たちは一週間ひたすらの日々となります。眠る時間もなく過ごしますが、その日々がひたすら尊い日々となります。

頑張つて欲しいと念じています。十一月にはみぞれの季節となります。どこよりも一足早い冬の到来となります。

（祥文拝記）

長秀院本堂

屋根ぐし補修工事

本年二月、風の害で本堂ぐしの銅板がめくれているのが確認されました。至急、状態を確認し補修いたしました。長秀院護持会として、保険をつかい、銅板補修を行いさらに高所作業車とクレーンをつかい屋根全体の状態を確認していただきました。お陰様で全体確認も済みました。本堂屋根は、かつてのカヤ葺きの形をそのままに再建し、カヤを降ろし、新たな骨組みを木造で行い、銅板に交換したものです。屋根の形が独特なのはそのためです。

昭和四十三年～四十四年3月落慶法要まで約一年を費した大工事でした。それから丁度五十年、補修等が必要になるのは当然



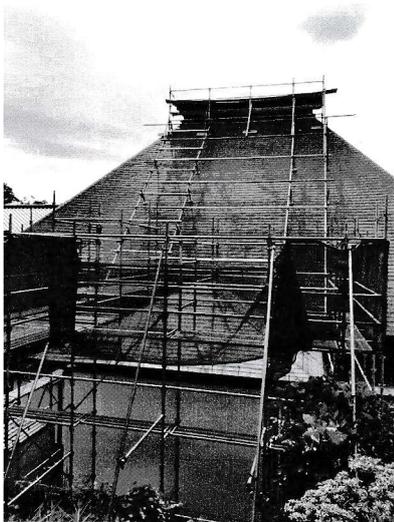
であると思います。

これからは「気候変動」に対応した準備が必要になってくるものと思えます。護持会で工事を終えて頂き、ありがとうございました。ご報告いたします。

仲興寺墓地参道工事

2・3まで完了

東壇の墓地は登ることにたいへん「きつい」ところです。若い人々には何でもないのですが、年配者には年々つらい登りにくいものとなつていきます。昨年護持会中心に半分を補修、本年さらに残りの部分を直しました。超高齢者社会となり、一つ一つ考えなければならぬことばかりとなっております。



本年度の旅行会のお知らせ

●日時

令和元年十二月五日（木）
～六日（金）

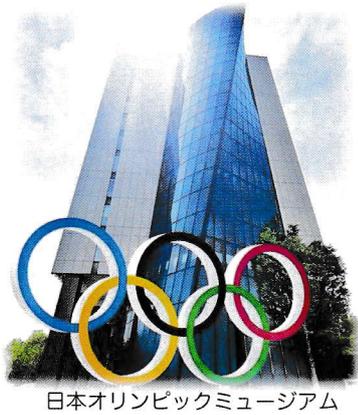
●東京・千葉方面

定員 二十五名（最少催行数二十名）

●申込×切 十一月十日

「さあ、二度目の東京五輪―オリンピック施設と寺院巡拝」と題し、九月に開いたオリンピック施設や国立競技場をまわります。

来年に向け、東京もかわりました。多くの方が二度目の東京オリンピックに出合うことができました。夕食は屋形舟で食事、その他東京・千葉の寺院をまわります。



日本オリンピックミュージアム

長秀院・仲興寺研修旅行

【さあ～2回目の東京オリンピック】

旅行期日 令和元年**12月5日(木)～**
12月6日(金)1泊2日

旅行代金 お一人様 **47,000** 円 ※屋形船料金11,000円を含みます
募集人員 **25**名(最少催行人員20名)

※全行程貸切バス利用です。利用バス：大和自動車交通(株)中型バス

【コース】

主な日程		食事	
12月5日(木)	6:45出発 長秀院＝仲興寺前＝福島西IC＝＝<東北・東京外環道>＝ (参拝) (昼食) ＝三郷南IC＝題経寺[柴又帝釈天] 葛飾柴又＝ (見学) (見学) ＝迎賓館赤坂離宮＝日本オリンピックミュージアム	朝食 － 昼食 	題経寺 帝釈堂 おもな見学地
	(乗車) (チェックイン・休憩) ＝新国立競技場等の施設を＝都内上野＝屋形船＝ 通り抜けバス乗車場へ たかはし丸 (宿泊) *屋形船での夕食 ＝都内上野	夕食 	迎賓館赤坂離宮
12月6日(金)	8:30出発 (参拝) (昼食) 都内上野＝＝豊川稲荷別院＝成田市内 (参拝) (見学) 成田山新勝寺＝牛久大仏＝阿見東IC＝〈圏央・常磐・ 19:30頃 (金) 磐越・東北道)＝福島西IC＝仲興寺前＝長秀院	朝食 昼食 夕食 －	東宮のために建てられた宮殿 かつて東宮御所として建てられた迎賓館赤坂離宮。 現在は、各国から賓客をお迎えする公式な施設と なっています。 屋形船<イメージ> 豊川稲荷別院 本殿
			世界一 な大きさの 大仏様 地上120m 成田山新勝寺 牛久大仏

※当日の交通状況により行程を変更する場合があります。(約90分おきに休憩有)

※人数確定後、集合場所及び時間を記載した最終日程表をお届けいたします。

【申込締切】

11月10日(日)または人員に達し次第締切とさせていただきます

【申込方法】 お寺までお申込み下さい

※必ず、手紙・FAX・葉書・メール等の残る形で申し込み下さい

【添乗員】 全行程同行いたします

【利用ホテル】 文豪・森鷗外ゆかりの宿
水月ホテル鷗外荘〈和室または洋室利用〉

◆水月ホテル鷗外荘のお風呂は、都内第一号に認定された歴史のある天然温泉です。

*総合旅行業務取扱管理者とは、お客様の旅行を取り扱う営業所での取引に関する責任者です。この旅行契約に関し、担当者からの説明にご不審な点があれば遠慮なく管理者にお訊ね下さい。

旅行
企
画

長秀院 仲興寺
〒960-8156 福島市田沢字寺ノ前18(長秀院)
TEL 024-548-1240

受
注
企
画

福島県知事登録旅行業3-130 総合旅行業務取扱管理者 佐藤 攻
(株)福島ビーエス観光
〒963-8001 郡山市大町二丁目5-14
TEL 024-923-6098

新そば祭りと洗心講座のご案内

田澤地域活性化推進協議会

と き 令和元年 11月10日(日)

ところ 福島市田沢 長秀院

第一部 そば打ち体験と試食会（郷土料理付き）

福島市松川町「水練り 籐八そば道場」の指導による「そば打ち体験」と「打ちたて・茹でたての新そば」と田沢地区の郷土料理を堪能して下さい。

そば打ち体験 10時～ 試食会 11時頃～

○参加費 1,000円（当日受付で頂きます。）

第二部 洗心講座（長秀院本堂）12時30分～

◎法話 長秀院住職 渡邊祥文師

※参加費は無料。

※たざわさん'ず農産物直売所（長秀院駐車場。福交バス停「寺ノ前」脇）

当日9時から10時まで、野菜・果物・農産物加工品の直売を行っています。